

# 外国人留学生支援のための芸術用語の基礎調査

## — 美術教員によるプレゼン講評から収集 —

### *Basic Survey of Artistic Terms to Support International Students*

### *— Collected from Presentation Comment by an Art Teacher —*

加藤 豊二 KATO Toyoji

(留学生別科)

#### 1. はじめに

2021年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、外国人留学生の入学が制限された1年であったが、2022年5月現在、本学には世界14か国、142人の外国人留学生<sup>1)</sup>(以下「留学生」という)が在籍している。しかし、入学後の留学生に対する日本語面でのサポートをする授業科目は、「日本語表現〔留学生〕」1科目のみである。

そこで、少しでも留学生の手助けになればと考え、彼らが実際にどのような日本語に接しているのかを、2020年度の芸術学部デザイン領域1年生が履修する「デザイン実技I」の調査(加藤 2022)に続き、2021年度は、芸術学部美術領域1年生が履修する「美術実技I-1」の授業で調査をした。具体的には、授業における、学生による作品のプレゼンテーションに対して、担当教員が、実際にどのような言葉を使用して講評しているのかを調査した。

#### 2. 研究課題

- (1) 「美術実技I-1」における学生による作品のプレゼンテーションに対して、美術領域の担当教員1人(以下「A先生」という)は、実際にどのような言葉を使用して講評しているのだろうか。
- (2) 美術領域のA先生は、どのような場面で、どのような言葉を使用して、講評しているのだろうか。
- (3) 前年度はデザイン領域の教員に対して同様の調査をしたが、領域の異なる教員間において、言葉の使用においてどのような類似点、相違点があるのだろうか。

#### 3. 調査方法

本学美術領域の1人の教員(A先生)にご協力いただき、2021年前期の「美術実技I-1」(アートファンデーション<sup>2)</sup>・陶芸)における、学生によるプレゼンテーションに対する、

---

1) 留学生別科43人を含む学部・大学院・研究生の人数。

2) (デザイン) ファンデーションとは、専門を入学当初から決めてしまうのではなく、様々な分野の基礎的なデザインを学んだあと、自分に適正な専門分野に進むための準備教育である。(萩原・水内 2016)

教員の講評を調査対象とした。

表1 調査をした「美術実技 I-1」の概要

授 業 名	美術実技 I-1（アートファンデーション・陶芸）
対 象 者	芸術学部美術領域 1 年生
日 時	2021年 8月 5日
担 当 教 員	A先生
当日出席人数	25人
録 音 時 間	1 時間46分25秒

具体的には、2021年 8月 5日に実施されたプレゼンテーションの講評を、ICレコーダーで録音し、そのあと文字化した。それから、頻出した言葉および気になった主な言葉を、品詞等を問わず、抽出した。美術に関して門外漢である筆者が抽出したため、抽出した言葉が妥当であるかどうかは不明であることをお許し願いたい。

当日の受講者数は、25人で録音時間 1 時間46分25秒であった。事前に A先生が学生に録音の許可を得たのち実施した。この時間は、教員による学生への講評のみならず、学生によるプレゼンテーションを含んだ時間である。ただし、分析の対象は教員の講評のみとし、学生のプレゼンテーションは分析の対象外とする。

#### 4. 結果と考察

##### 4-1. A先生による講評の言葉

1つ目の課題は、A先生は、学生のプレゼンテーションに対して、実際にどのような言葉を使用して講評をしているかであるが、調査の結果、主に表2のような言葉60語を多く使用して講評していることが明らかになった。また、五十音順・頻度順に示したものが表3-1、表3-2である。

この授業は、美術領域 1 年生に対するファンデーションの陶芸の授業である。そのため、授業の内容そのものを表す「陶芸」、その過程を表す「作る」、「焼き上がった」、その完成品を表す「作品」「やきもの」などの言葉が多かった。また、この陶芸の材料となる「釉薬」「粘土」などの言葉も多く使用されていた。

そして、最も多く使用されたのが「感じ」である。自分自身の感想を述べるのに「感じ」を使うと、「柔らかい」ニュアンスとなる。それゆえ、多く使用されたのではないだろうか。

例 1) 本当にこの組み合わせも斬新だったし、あと合わせもばちっといってて、すごくいい感じで作れていたと思いますけど。

例 2) このお皿の感じとかも、非常によく細部までこだわって作っている感じもするし、こっちのブッシュ・ド・ノエルのほうもいいじゃないですか。

表2 A先生が講評で使用した主な言葉（頻度順）60語

順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度
1	感じ	91	21	表情	11	37	フィギュア	7
2	いい	60	21	もちろん	11	37	本当に	7
3	おもしろい	58	21	やきもの	11	43	印象	6
4	作る	52	24	結構	10	43	関係	6
5	作品	44	24	設定	10	43	視点	6
6	形	34	24	本当	10	43	重要	6
6	自分	34	24	焼き上がった	10	43	素材	6
6	でも	34	28	解釈	9	43	変化	6
9	陶芸	33	28	変わる	9	43	魅力	6
10	すごく	30	28	質感	9	43	魅力的な	6
11	色	29	28	出来	9	51	入れ物	5
11	釉薬	29	28	モチーフ	9	51	色合い	5
13	すごい	27	33	楽しく	8	51	きっかけ	5
14	粘土	25	33	どンドン	8	51	実感	5
15	やっぱり	19	33	流れる	8	51	大丈夫	5
16	雰囲気	18	33	なるほど	8	51	楽しい	5
17	たぶん	16	37	ある種	7	51	丹念に	5
18	非常に	14	37	機会	7	51	びっくり	5
19	物	13	37	興味	7	51	見え方	5
20	実は	12	37	特に	7	51	立体	5

2番目に多かったのは、「いい」である。シンプルでわかりやすい言葉である。

例3) この風景がなんかいいよね、素朴で。僕は素朴でいいなって思うんですよね。

例4) なんか、すごい不思議な感じで出来ていて、いいですよ。

それから、3番目に多かったのは、「おもしろい」である。これは、昨年のデザイン領域の教員も多く使用していたが、「おもしろい」は芸術作品に対しての一番のほめ言葉であると言えよう。筆者自身も「いい」よりも「おもしろい」と言われたほうが率直にうれしい。

例5) 神聖なもの？ 得体の知れない感じがして、すごくいいですよ。おもしろいですよ。そういう感覚を大切にしていっていいかなって思いますけどね。

例6) なんか、すごいおもしろいなと思って、いいんじゃないですかね。すごい重要なんだろう、力強い感じが、やっぱり「やきもの」だから出るかなって感じ。

また、程度がはなはだしいさまを表す「すごい」「すごく」「非常に」が多く使われていた。

例7) それ、すごいおもしろいと思う。物語と風景が入れ子状になっているのが非常におもしろいと思うので、すごいおもしろいと思う。

表3-1 A先生が講評で使用した主な言葉（五十音順・頻度順 その1）153語①

五十音	抽出語	頻度	五十音	抽出語	頻度	五十音	抽出語	頻度
ア	いい	60	カ	変わる	9	サ	作品	44
	おもしろい	58		機会	7		自分	34
	色	29		興味	7		すごく	30
	ある種	7		関係	6		すごい	27
	印象	6		きっかけ	5		実は	12
	入れ物	5		変える	4		設定	10
	色合い	5		経験	4		質感	9
	嫌だ	4		削る	4		視点	6
	描く	4		こだわる	4		重要	6
	凹凸	4		細かく	4		素材	6
	色数	3		関わり方	3		実感	5
	薄い	3		関わる	3		自分なりに	4
	器	3		感想	3		実現	3
	うにやうにや	3		気持ち	3		説明	3
	絵	3		切り口	3		細工する	2
	一生懸命	2		組み合わせる	3		細部	2
	意図	2		濃い	3		斬新	2
	温かい	1		言葉	3		仕上がり	2
	安定感	1		可能性	2		素直	2
	色味	1		感覚	2		選択	2
印象的	1	機能美	2	姿勢	1			
おっかなびっくり	1	具体的	2	重量感	1			
おどろおどろしい	1	形状	2	すっきり	1			
カ	感じ	91	結果的に	2	ずっしり	1		
	形	34	感覚的	1	石粉粘土	1		
	結構	10	切り取る	1	素朴	1		
	解釈	9	工芸	1				

\*実際にはもっと多くの言葉を抽出しているが、ここには主な言葉だけを掲載する。

例8) これがあることで、すごく器の形の色の雰囲気が急に増すってうか、そういう感じがしておもしろいなって思いましたけどね。いいですね。これ、いいですね。

A先生が多く使用した「感じ」「いい」「おもしろい」の言葉といっしょに使われている。この「すごい」「すごく」「非常に」などがあることにより、単に「おもしろい」よりも強調されていて、「ほめる」気持ちを強く伝えることができる。

その他、加藤（2022）では、中国人の学生に、デザイン教員による講評における言葉のアンケート調査を実施したところ、カタカナ語が弱かった。そこで、今回の美術教員による講評で使用されたカタカナ語を掲載する（表3-3）。漢字圏の学生ばかりでなく、英語圏の学生にとっても、カタカナ語は苦手なようである。

表3-2 A先生が講評で使用した主な言葉（五十音順・頻度順 その2）153語②

五十音	抽出語	頻度	五十音	抽出語	頻度	五十音	抽出語	頻度	
タ	作る	52	ナ	粘土	25	ハ	本人的	2	
	でも	34		流れる	8		本物	2	
	陶芸	33		なるほど	8		抜群な	1	
	たぶん	16		塗る	3		ぴんと	1	
	出来	9		苦手	3		ふわっと	1	
	楽しく	8		中身	2		ふんわり感	1	
	どんどん	8		日常	2	マ	物	13	
	特に	7		濃淡	2		もちろん	11	
	大丈夫	5		納得	1		モチーフ	9	
	楽しい	5		ハ	雰囲気		18	魅力	6
	丹念に	5	非常に		14		魅力的な	6	
	対照的に	4	表情		11		見え方	5	
	力強い	4	本当		10		無理	4	
	出来上がり	4	フィギュア		7		問題	3	
	試す	3	本当に		7		ヤ	釉薬	29
	手応え	3	変化		6			やっぱり	19
	確かに	2	びっくり		5	やきもの		11	
	楽しい	2	深み		3	焼き上がった		10	
	つるんと	2	発想		2	柔らかさ		3	
	出来栄え	2	ぱっと	2	焼き上がり	2			
どきどき	2	はっとする	2	より一層	2				
対比	1	ぴったり	2	ラ	立体	5			
単色	1	複雑な	2		立体物	1			
断然	1	不思議な	2						
伝わる	1	ほてっと	2						

\*実際にはもっと多くの言葉を抽出しているが、ここには主な言葉だけを掲載する。

\*「モチーフ」「フィギュア」以外のカタカナ語は表3-3に掲載する。

表3-3 A先生が講評で使用したカタカナ語（五十音順）42語

五十音	抽出語	頻度	五十音	抽出語	頻度	五十音	抽出語	頻度
ア	アイデア	1	サ	ストーリー	3	ハ	フィギュア	7
	アプローチ	1		ストレス	3		プラス	1
	イメージ	3	タ	タイト	1		フラット	1
	エッジ	1		タイトル	2		フリーザー感	1
	エピソード	2		タイミング	2		プロセス	2
	オープン粘土	1		チャーミング	1		プロポーシオン	2
	オリジナリティー	1		チャレンジ	2	ベース	1	
カ	コメント	1	ディーテイル	1	マ	マチエール	1	
	コントラスト	1	テーマ	1		ミニチュア感	1	
サ	サイズ	1	テクスチャー	2		ミニマルな	1	
	シミュレーション	1	デコレーション	1		メルヘン	1	
	シンプルな	2	ドレープ	1		モチーフ	9	
	スケジュー尔的	1	ハ	ハッピー	1	モフモフ	1	
	スタイル	1		ファンデーション	5	ユニークな	1	

#### 4-2. A先生の講評における場面と言葉

次に、2つ目の課題であるが、A先生は、学生による作品のプレゼンテーションにおける講評で、具体的に、どのような場面で、どのような言葉を用いて講評しているのだろうか。

一般的には、学生によるプレゼンテーションのあとに講評へと続く。しかし、A先生の場合は少し異なる。もちろん、学生によるプレゼンテーションのあとに講評をするが、A先生による講評の流れは、必ずと言ってもいいほど、学生へ陶芸についての感想を聞くことが多い。それから、教員自身が疑問に思ったことなどについて学生に質問をし、作品に対する理解を深める。また、コメントは基本的によい点を見つけてほめる。そして、最後には、この経験を生かして、自分の関心がある分野に生かしてほしいと伝える。また、陶芸に関心がある学生に対しては、引き続き、もっと作品を作る機会を多くし、さらに作品を作る技術を上げ、より自分自身の作りたい作品をスムーズに作成できるようになってほしいとの気持ちを伝える。

##### (1) 陶芸についての感想を聞く

A先生は、陶芸についての感想を聞いているが、実際にやってみての「焼き上がった」「やきもの」の感想をぜひ聞きたいとの気持ちが伝わってくる。

例9) 陶芸やるの初めて? どうだった? やってみて。

例10) どうですか? 焼き上がった 感じって、自分で見で。

例11) 出来栄えはどうですか? 自分で。

初めて陶芸をしたときの気持ちを学生も感じているのかをA先生も知りたくて、その結果、例12、例13のような質問となる。この質問には、「粘土」から「やきもの」になる「変わる」「感じ」を、学生はどう感じているのかを知りたいとの先生の気持ちがよく表れている。

例12) 粘土の時から、だ**いぶ**変化したと思うんだけど、焼き上がったものは、今日初めて見るわけなんだけど、なんかその時の印象とかありますか? 好き、嫌い? 好き嫌いで言うのもなんだけど、気に入ったとか、ちょっと違ったとか。

例13) 粘土で作っている時と、「やきもの」になると、だ**いぶ**変わるじゃないですか、雰囲気が。どうですか? こうやって変わってしまう感じとかって。自分で焼き上がってみて、焼き上がったほうがいいですか? それとも粘土のほうがよかったですとか、なんかありますか?

## (2) よい点を見つけて学生の作品、姿勢をほめる

A先生から学生への作品等へのコメントは厳しい指摘はなく、基本的によい点を見つけて、ほめるという姿勢を貫いている。

例14) すごくいい雰囲気で、人の感じとかすごくいいですね。チャーミングで僕はいいなって思いますけど。

例15) これなんか結構、斬新だよ。このアイデア。この今、暑い季節にぴったりじゃないですか。

例16) あなたの魅力って、こういう細工するところにあると思うんですよ。なんか鳥の顔とか手の感じとか、すごい細かいところにこだわってたじゃないですか。こういう付いている装飾的なところとか。

例17) 作っているときも、すごくずっとこれも丹念に仕上げようという姿勢もよかったし、仕上がりも抜群な感じで、すごくいい出来だなって思いましたけど。

例18) 僕の提示とは違う解釈で作ったのが非常によかったなと思うんですよ。

例19) この形の導くプロセスっていうか、考えるプロセスがおもしろいなって思ったんだよ。

例20) でも自分なりにテーマを設定して、こうやって作ったのがすごくよかったと思うし。

例21) おもしろい発想だよ。言葉って、うまくできない、言えないよね。

先生が学生をほめるポイントは非常に多い。作品の「雰囲気」だったり、「斬新」な点であったり、また、学生の「細工する」「こだわる」「丹念に」する姿勢や、考える「プロセス」や自分なりに「設定する」「プロセス」や「発想」など、ほめる点の幅が広い。

## (3) 今後のアドバイス

講評の最後には、この陶芸の経験を生かして、自分の関心がある分野で頑張ってもらいたいとアドバイスを送っている。

例22) 興味あれば、またぜひ陶芸で作品、作っていくということもしていくといいかもしれませんね。

例23) こういう関わり方って非常に素直でいいなって思ったので、機会があったら粘土で作品をまた作ってみることにチャレンジするというのも、僕はありかなって思いましたけど。

例24) まず、このファンデーションで素材が変化するってことが、実は工芸のほうでは、みんなが実感してほしいことで、それガラスのほうでも起きるじゃないですか。

だから、日常使っている器から便器までいろいろありますが、そういう「やきもの」を自分の手で作って形から作って焼き上がるっていうか、完成まで自分で経験すると、物の見え方って、たぶん変わってくると思うんだよね。まずは、それが重要かなって思うんですけど。

例24には、まさに、このファンデーションでの目標を述べている。A先生は、この授業での、「粘土」から「やきもの」への変化の経験を通して、学生の物の見え方が変わることを実感するのを期待している。それゆえ、その経験を実際にしたのかを知りたくて、A先生は、学生によるプレゼンテーションのあとにすぐ、「陶芸」をやってどうだったのかと質問をするのである。

#### 4-3. デザイン領域の先生との「講評における主な言葉」の比較

それでは、3つ目の課題である。前年度はデザイン領域の教員に対して、今回と同様の調査をしたが、領域の異なる教員間において、講評での言葉の使用においてどのような類似点、相違点があるのだろうか。

表4は、美術領域のA先生と、デザイン領域のA先生の、学生によるプレゼンテーションに対して使用した講評の言葉の一覧表である。

いずれの領域でも多く使用されていたのは、「おもしろい」「作品」「やっぱり」である。どちらの領域も作品を作り、その作品に対する講評をするので、一番のほめ言葉である「おもしろい」がよく使用されていたのも、納得のいく結果である。また、その授業に関する言葉、美術で言えば、「陶芸」「粘土」「やきもの」「釉薬」などが多く使用されているのも理解できる。しかし、よく使用された言葉で、美術領域とデザイン領域の相違点は、カタカナ語ではないだろうか。上位30語あまりの比較だが、デザイン領域ではカタカナ語が7語あったが、美術領域では、「モチーフ」の1語だけであり、デザイン領域のほうが、扱うカタカナが多いと言えよう。だが、外国人留学生が苦手としているカタカナ語も、このような調査を重ねていけば、ある程度どのようなカタカナ語が使用されているのかが予測できる。それゆえ、今回のような調査で抽出したデータを蓄積し、例文とともに、英語、中国語等の翻訳をしたものを用意すれば、外国人留学生の理解も高まると思われる。

## 5. おわりに

2022年5月1日現在の本学における外国人留学生は、世界14か国、142人であり、前年度の2倍近くの留学生が在籍している。今回は、2020年度のデザイン領域の教員に続いて、美術領域の教員を対象に、「ファンデーション」の実技授業で、実際にどのような言葉を使用しているのかを調査した。



表4 デザイン領域の先生との「講評における主な言葉」の比較

美術領域 A先生			デザイン領域 A先生		
順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度
1	感じ	91	1	表現	45
2	いい	60	2	おもしろい	43
3	おもしろい	58	3	作品	33
4	作る	52	4	課題	31
5	作品	44	4	結構	31
6	形	34	6	変化	29
6	自分	34	7	プレゼン	24
6	でも	34	8	アイデア	20
9	陶芸	33	8	構図	20
10	すごく	30	10	やっぱり	19
11	色	29	11	大事	18
11	釉薬	29	12	確かに	16
13	すごい	27	13	すごい	15
14	粘土	25	13	デザイン	15
15	やっぱり	19	15	挑戦	13
16	雰囲気	18	15	プレゼンテーション	13
17	たぶん	16	17	着彩	12
18	非常に	14	17	ポイント	12
19	物	13	17	難しい	12
20	実は	12	17	モチーフ	12
21	表情	11	21	丁寧に	11
21	もちろん	11	22	意図	10
21	やきもの	11	23	質感	9
24	結構	10	23	慣れる	9
24	設定	10	25	うまい	8
24	本当	10	25	技術力	8
24	焼き上がった	10	25	最終的な	8
28	解釈	9	25	なかなか	8
28	変わる	9	29	工夫	7
28	質感	9	29	表現力	7
28	出来	9	29	レビュー展	7
28	モチーフ	9			

\*デザイン領域A先生のデータは加藤（2022）より抽出。

この授業は、ファンデーションの授業であるため、学生に陶芸の楽しさを知ってもらうことが第一の目標である。そして、その中でも陶芸の資質、あるいは陶芸に興味がある学生には、2年でのコース分けで、ぜひ「陶芸」コースに進んでほしいとのA先生の気持ちが表れる講評となっている。A先生の講評を聞いていて感じるのは、先生の「陶芸愛」である。特に、「粘土」から「やきもの」に変化する点に、陶芸のおもしろさ、陶芸の醍醐味があり、その点を感じてほしいとの先生の気持ちが講評に表れている。

中国を中心としたアジアからの留学生の増加が今後も見込まれるため、彼らの日本語面でのサポートは急務である。多数の学生に一斉に教える教員にとっては、ほとんどが日本

人である教室で、留学生のことを考え講評するのは難しい。しかし、頻繁に使用される専門用語、あるいはカタカナ語についての例文つきの翻訳を用意すれば、少しでも彼らの理解の助けになるであろう。

今後は、学部ではなく、自分の所属する留学生別科の学生のため、少しでも役に立つ研究を続けたいと考えている。

#### 謝辞

本研究は、芸術学部美術領域の先生ならびに学生の皆さんの協力を得た。ここに記して、感謝の意を表する。

#### 引用文献

- 加藤豊二「外国人留学生支援のための芸術用語の基礎調査—デザイン教員によるプレゼン講評から収集—」『名古屋芸術大学研究紀要』43、愛知、2022年、pp. 21-34
- 萩原周・水内智英「日本における初年度共通デザイン基礎教育の実態調査・検証—デザインファンデーションプログラムの可能性と課題からその将来を展望する—」『日本デザイン学会第63回研究大会概要集』、東京、2016年、pp. 228-229

#### 参考文献

- 伊藤春子「経営学部で学ぶ外国人留学生のための基本語彙調査—シラバスを用いた試行調査—」『星城大学研究紀要』18、2018年
- 上山輝「デザイン教育の視点からみる一般学生のプレゼンテーションポスター制作と評価」『美術教育学研究』49、2017年
- 坂本恵・ナジェージダ ウェインベルグ（2017）「ほめの諸相—日本語母語話者は何をほめと認識するのか—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』43、2017年
- 山田眞一「中国語の芸術系科目における教室談話についての一考察—語彙を中心に—」『富山大学芸術文化学部紀要』12、富山、2018年